

プラットフォームについて（佐藤会長の見解より）

①いたばし総合ボランティアセンターの中間支援組織としての機能と、プラットフォーム機能の違いについて

A1. 佐藤会長の「課題ヒアリングシートにかえて」に記載のある「プラットフォームを創る」というのは、既存のボランティアセンター（中間支援組織）に、新たに別途「プラットフォーム」機能を構築するイメージなのでしょうか？ それとも、現在のいたばし総合ボランティアセンター（中間支援組織）が、プラットフォーム機能を生かせるよう、中間支援組織の機能を強化するイメージなのでしょうか？

また、そもそも「中間支援組織＝プラットフォーム」という考えではなく、「プラットフォーム」を定義するものがあるのでしょうか？

Q1. 現在のいたばし総合ボランティアセンター（中間支援組織）が、板橋区という地域にプラットフォーム機能が展開できるよう、中間支援組織としての機能を強化するイメージです。

多元的な社会における共生と協働に向けて、人材、資金、情報などの資源提供者と NPO や住民自治活動を支援し、ネットワーク、人材育成、さまざまなサービスの需要と供給をコーディネートするのが中間支援組織と捉えます。この場が、関わる社会資源と対等な存在としてあり、新たな社会資源や活動を創出し得るインキュベーション機能を有するとともに、発展的に組織変革も可能であればプラットフォーム機能を有しているといっても良いと思います。そこには、新たな中間支援組織が生まれることも有り得ます。つまり、プラットフォームは1つの「組織体」ではなく、「仕組み」や「空間」で、多様な社会資源としての組織等と対等につながり、さまざまな活動等を地域に生み出し、地域づくりにも寄与し得ます。組織体としてある程度の制約の中で関係団体等とのネットワーク、人材育成をする組織であれば、1つの中間支援組織と捉えることが妥当となる場合もあると思います。

当初のような NPO、社協等、さまざまな社会資源が対等に位置付き、ミッションに向けて意識的に前述した点を踏まえて展開されているのであればプラットフォーム機能を有すると言えると思います。

私は、今日の多様化する社会において、区の SDGs 未来都市計画に依拠し、誰一人取り残さない社会の実現に向けて幅広くボランティアを促進していくギヤチェンジのためには、プラットフォーム機能を促進し、ボランティアを通じて活性化を図る視点が必要と考えます。

私は、地域を基盤とする福祉教育推進プラットフォームを日本福祉教育・ボランティア学習学会で提言し、そこでは、プラットフォームとして「中間支援組織もあり得る」と記しています。そして、従来の「組織」と異なり、町内会等の地縁的な団体と、NPO・ボランティア等の機能的な団体が連携し、共通「目的」の遂行に向けて柔軟で機動性が高く、福

社や教育関係者等、多職種とも協働し、対等な立場で関係者が協議することができる。多様な具体的な地域の「活動」を通じて、個人や組織、団体等が常に新陳代謝を可能とし、さまざまな社会資源とつながり、その相互作用を「コーディネート機能」で支える。各々のエンパワメントを高め、相乗効果として新たなアイデアが創出される学習と実践が渾然一体化し、常に往還的に機能する。インフォーマル及びノンフォーマル・エデュケーションを担い、多様な人と社会資源の出会いと交流により、さらに新たなつながりを築き、人材育成や、単体では担いきれない新たな学習から実践活動(社会資源づくりを含む)を次々に創出するインキュベーション機能をもつ進行形の仕組みと捉えています。

②プラットフォーム機能とネットワーク機能の違いについて

A2. 「プラットフォーム機能を強化又は創設すること＝ネットワークの構築」になることはあるのでしょうか？加えて、ボランティアセンターの運営における、「ネットワークの構築」と「プラットフォームの創設」の違いについて定義等は何かあるのでしょうか？

また、プラットフォーム機能とネットワーク機能は、どちらかが先行してなされるものなのでしょうか？

Q2. 私たちは、所属する組織での管理・運営や、趣味等のサークル活動、地域社会の一員としての各種の役割等、さまざまな社会的な活動の結節点として人と人との間に形成された社会的なネットワークの中で生きていくと言えらると思います。つまり、ネットワークとは、ある組織・団体と他の組織・団体が連結される組み合わせの集合と言えらると思います。福祉の学びにおいては、リップナック・スタンプス夫妻の「ネットワークとはわれわれを結びつけ、活動、希望、理想の分かち合いを可能にするリンク」が紹介されています。①で機能は記しましたが、プラットフォーム機能においては、ネットワークも構築しながら、その関係性を活かし、協働によって新たな社会資源を開発し、互いの組織・団体の活性化や発展を生み出すことにもつながると思います。異なる団体とのつながりを構築するネットワークとプラットフォームはイコールの関係ではないと考えます。

プラットフォームもネットワークも IT 分野で構築されてきたものと思います。プラットフォームについては、地域経済の発展に活用され、その後、生涯学習にも活かされるようになり、その知見を踏まえながら私は福祉で記してきました。今日、地域づくり等でもプラットフォームが活用されています。それらを進める際に、ネットワークをつくることは含まれていると思います。いずれについても各々の分野での定義仮説はあると思いますが、すべてに共通するのは、ネットワークは何かと何かを結び付ける、プラットフォームは多様な社会資源が主体的に協働し、多様な情報と人材が結集して新たな活動を創出する仕組みといえるのではないかと、私は捉えています。

創成過程において、どちらが先行するかといえば、ネットワークがつくられ、それが活かされプラットフォームとして機能するようになると思えらると思います。